



ニュースリリース

2015年 2月16日
新日鉄住金エンジニアリング株式会社

フィリピンにおける廃棄物利用発電技術普及促進事業の採択について ～ 廃棄物処理プラントビジネスの東南アジア営業強化 ～

新日鉄住金エンジニアリング株式会社（代表取締役社長 高橋 誠、本社：東京都品川区）環境ソリューション事業部（事業部長 吉武 考三郎）は、独立行政法人 国際協力機構（JICA）が支援する「開発途上国の社会・経済開発のための民間技術普及促進事業」において、北九州市等と連携して「フィリピン/ダバオ市廃棄物利用発電技術普及促進事業*」に提案・応募し、今般、正式に採択されましたので、お知らせ致します。今回の採択により、北九州市の廃棄物管理に関する知見と当社の廃棄物発電技術を利活用し、JICAの重点支援地域であるフィリピン国ミンダナオ島の中核都市ダバオ市において、初めての廃棄物発電事業の可能性検討が実施されることとなります。

フィリピン国では、経済成長、都市化の進展に伴い、廃棄物発生量の増大と、それに伴う最終処分場不足への対応が喫緊の課題となっております。当社は既に同国において、北九州市並びに楯エックス都市研究所とともに、環境省が公募した平成26年度「我が国循環産業海外展開事業化促進事業」の枠組みの下、フィリピン工業団地群における廃棄物発電事業調査（F/S）を実施中ですが、今般採択された前記事業の推進とあわせて、同国における廃棄物の大幅な減量化と、エネルギー利用拡大を同時に図る廃棄物発電事業の実現を目指した効率的な廃棄物管理・処理システムの調査、検討により一層取り組んでまいります。

東南アジア各国においては、経済成長や人口増などにより、主に都市部で一般ごみの埋立処分場の逼迫や環境問題が顕在化しております。当社が長年に亘って蓄積してきた東南アジア各地域での豊富なプロジェクト実行経験とアセット（同地域に計12か所の支店・現地法人を保有）に加え、昨年5月に買収した欧州廃棄物処理プラントのメインプレイヤーであるSteinmüller Babcock Environment社（以下、SBE社）のストーカ炉式ごみ焼却発電技術により、当社は同地域における廃棄物処理ニーズに大きく貢献できると考えております。このため、新たな営業拠点の設立を含む体制の整備・拡充を図りつつ、同地域における廃棄物処理プラントビジネスの営業を更に強化してまいります。

当社はこれら施策を通じて、今後もSBE社とともにグローバルに環境問題に対応できる環境プラントエンジニアリング企業として更なる発展を目指す所存です。

※【案件概要】

<p>本事業の達成目標</p>	<p>増大する廃棄物の大幅な減量化とそのエネルギー利用を同時に図る「ごみ発電（Waste to Energy）事業」を実施することにより、日々増大する廃棄物発生量とそれによる処分場の負荷増大を効果的に削減することが究極の目的。</p> <p>本事業は、かかる目的のための調査事業であり、北九州市等と連携しつつ、以下を達成目標とする。</p> <p>①ごみ発電（Waste to Energy）事業を成立させるための検討</p> <p>②本邦へのダバオ市関係者の受け入れ事業を通じて、「ごみ発電（Waste to Energy）事業」及び処理技術についての理解を促進すること</p>
<p>本事業の実施計画</p>	<p>1. 事業化に向けた諸条件に係る現地での詳細調査</p> <p>2. ダバオ市の関係者招聘による本邦研修事業</p>
<p>本事業の期間</p>	<p>2015年2月～2016年1月（12か月）</p>
<p>相手国実施機関</p>	<p>ダバオ市環境天然資源局 環境廃棄物管理部（ESMD/CENRO）</p>

[お問い合わせ先]

経営企画部広報室 03-6665-2366

以上